

2011年4月5日 No.106

全国一般労働組合全国協議会

編集発行人 中岡基明

東京都港区新橋5-17-7 小林ビル

TEL03-3434-1236 FAX03-3433-0334

URL:<http://www.nugw.jp>

E-mail:nugw@nugw.jp

全国一般全国協



東北関東沖から発した大きな震源は日本を覆い、巨大津波となつて、岩手県から千葉県までの東日本の海岸一帯を広くなめ尽くしました。死亡者は1万人を超えて、今なお2万人近くの行方不明者がいる大災害が発生しました。被災された組合員の方々、家族の方々並びに全ての被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

また、この地震は「安全神話」に隠されてきた原子力発電を直撃し、東京電力福島原子力発電者はもろくも崩れたり、崩壊したり原子炉から放射能をまき散らしました。そして30キロ圏内の人々は行き場を失い、また放射の汚染による農業・漁業にも壊滅的な被害をもたらしています。

今後、被災された人々が元の生活に戻ることができるには幾多の歳月が必要になるのか予想ができない事態になってしまっています。

東日本大震災は11春闘にも大きな影響を与えていました。「けんり春闘」の先行的闘いとして恒例の取組みとなつていた「外国人労働者の権利確立の為の総行動」が3月13日に予定されましたが、中止となり、3月に予定されていた郵政やNTT職場のストライキは被災者救援

'11春闘スケジュール

★4/6(水) 中央総行動

13:30～経団連
17:00～経産省・東電

★4/10(日) 浜岡原発すぐ止めて集会

13:00～：芝公園23号地

★4/16(土) 沖縄・辺野古に基地を押し付けるな集会

14:00～ 東京/星陵会館

★4/30(土) 徳島メーデー前夜祭

13:00～

★5/1(日) 第82回メーデー

に全力を尽くすことになり取りやめとなつてしましました。その他の取組みも被災した人々の気持ちを斟酌して自肅する動きが日本全体に拡がつていきました。11春闘が本格的に闘い始めた矢先の大震災の発生は春闘を一気に吹き飛ばすものでした。

11春闘は長く続いた不況や新自由主義による規制緩和によって労働者の生活は「貧困と格差」社会に追いやられ、労働者の権利は剥奪され、日々の生活さえ事欠く状況に追込まれてきました。そうした現状を打破し、権利回復と生活再建に向けた大きな闘いを作ること、経営側が貯め込んでいる巨額といふ腰らんでいる内部留保を賃金として労働

者に還元させること、そして労働者派遣法の抜本改正を通じて有期労働契約の規制を図る突破口として実現させることが求められたことは組織された労働者・労働組合の任務です。

大震災の被災者へ支援に全力を挙げるとともに、この11春闘も全力で闘うことが求められています。企業は大震災や停電を行し始めています。派遣切りや内定取り消しを行なう企業も多く出始めています。こうした理不尽な攻撃に断固として立ち向かい、労働者を守りきる労働・生活相談窓口を強化していくましょ。

JAL不当解雇撤回裁判開始

原告冒頭陳述で、JALの不当性を糾弾

件の労災事件を取り組んでいます。一つは過労死で、これはすでに労災認定されて3月に会社に対する慰謝料と損害賠償請求の裁判を提訴しました。他には、事故の後遺症で休業中の労働者の問題です。一人は有期雇用で雇い止めになり、会社と交渉して金銭和解しましたが労災は一部しか認められず、今後、労災の審査請求が続きます。一人は労災認定されていますが、症状固定で打ち切りになりますので、

トラック部会

洛南ユニオン

構造的にある残業賃金未払いから組織拡大を準備しているものが2件あります。が、1件は倒産ぎりぎりの攻防になりそうです。

洛南ユニオンのメンバーの中にも、東日本大震災の救援業務で、11日の夕方から大型トラックで水を運んでいる組合員、関西からバキュームカーを走らせて被災地のし尿収集に派遣された人もいます。街頭募金にも取り組んでいます。こんな時に労働組合の社会的役組みが続ります。

労働者代表に加藤委員長

由倉勞組

荏原由倉ハイドロテック
藤岡工場における今年度の
三六協定の労働者代表選挙
が実施され、加藤委員長が
労働者代表に選出された。
組合の委員長が労働者代表
になったのは、組合つぶし
攻撃により少数派になつて
以来、十五年ぶりの快挙で
ある。

全従業員百二十名中、組
割をそれぞれ自覚して、被
災地労働者との連帯を具体的
な活動にしていくことの
重要さを実感しています。

員72名のJAL解雇無効を訴えた裁判が始まった。東京地裁前と国土交通省前で裁判開始前に裁判支援を訴える集会を開催、その後、一番大きな法廷を埋め尽くし傍聴体制が取られた。

单年度の収益が1400億を超える中、整理解雇は全く必要ない。稻森会長が、「260名の整理解雇はやらないこともよかつた」と発言をするなど、裁判をやる前から会社の敗北が予測される。早期の決着、全員の職場復帰を勝ち取るために全力で支援を強化しよう。

合員は十四名と少数派であるが、二〇二〇三年の代表選挙では、非組合員の立候補者に対し、組合代表は僅少差で負けていた。今年こそ逆転しようと思込んでいたが、今年度は、立候補者が加藤委員長一名のみであったため、無投票で加藤委員長が労働者代表に選出された。

争議解決後、由倉の前社長が会社をそつくり荏原製作所へ身売りし、荏原由倉ハイドロテックが発足してから、五年が経過した。小

真夜中まで残業と「内職」を強いられ、残業代としては、時給450円という低賃金以下の金額しか受け取っていませんでした。

2月3日、権利ネット北九州の会員として、会員

新組合の結成

中国人実習生6名・縫製会社リゲルに通告

ユニオン北九州

過労自殺は、昨年6月に
労災認定され、ご遺族の裁判も同年12月に和解が成立しました。しかし、今もな
ど派の組合の代表が労働者代表に選出されたことは、非組合員の中に、組合の活動が理解されてきていることを示しており、これを契機に新たな組合員の獲得にはずみをつけたい。



3月4日総評会館、労働弁護団主催の『労働者性の否定を許さない集会に200名

今こそ地域復興闘争を開始しよう！

宮城合同労働組合

突然襲った未曾有の大震災で全国の皆様の多大なご心配ご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

私たちは昨晩の震災対策会議において、被災者意識をのりこえて地域の復興に向け10年の総力戦に立ち上がる決意を打ち固めました。全国から注がれるあつい支援が無駄にならないように、当地に生まれ育ち働き続け

(3) 第106号 第106号(2)

てきた私たちが先頭に立ち奮闘します。避難所の人々の多くは家族と家と共に失い、ささやかであっても光をもとめています。かろうじて津波にのみれなかつた人々も泥と瓦礫で覆われ、一日も早い復旧がまたれています。

宮城全労協は、遠路かけつけてくださいるボランティアの方々と共に、生活支援、

復旧の取り組みを進めていきます。また、休業や解雇の労働相談が今後益々増加する状況があり、相談体制強化の討議を始めています。今しがた、東京電力の会長が「福島第一原発1~4号炉の廃止はやむを得ないだろ」と報道陣に述べました。が、どうやら5~6号炉は再開する気でいるようですね。私たちの復興闘争は原発の絶滅なくしてありえません。闘いはこれからです！

(3月30日)

2011年3月11日を基点として被災地の情景はもちろんとして、われわれの心のありかたまでこの大震災は変えてしまった。

特に東電の原発事故は福島県内10市町村の住民の避難勧告となり、郡山市には約5000人の方々が避難している。組合としても所在地に一番近い避難施設（県立郡山高校）の支援をきけたが、それはあくまで一時的なことで、長期にわたるであろう今後の生活支援をどうするかが問われている。

現在に至るも、郡山市は市役所、中央公民館、文化センター等公共施設がことごとく崩落の危険に直面しているが、現状把握すらで

きていない個人住宅に関しては全く手付かずである。組合にも震災で自宅待機を指示され「解雇」の心配に駆られる女性からの相談が数件寄せられている。パート労働者の大量首切りの情報もある。現在私たちは、

労働者の権利の擁護という仕事と同時に、人間存在そのもの根底から否定する「原発」問題に直面しなければならない。それは日本のあり方を含めて労働運動を担う全ての人々に問われている課題である。

日本のエネルギー政策の転換点では必ず大争議が起きている。石炭から石油への国策で石炭労働者が切り

捨てられた三井三池争議（1960年）、脱原発の実現には今命を賭けて働いている1次2次下請労働者を含した労働者の視点から日本のエネルギー政策転換の提言と国民運動が必要だろ

う。

(3月29日)

（1960年）、脱原発の実現には今命を賭けて働いている1次2次下請労働者を含した労働者の視点から日本のエネルギー政策転換の提言と国民運動が必要だろ

う。

(3月29日)

：宮城県七ヶ浜にある東北電力仙台火力発電所で、保守点検のため天井クレーンに乗って作業中、大地震にあつた。発電所天井からは、照明等が一斉に落下したが、彼は5階にたどり着き、3階事務所まで降りることができた。

翌日、新潟までの車で送つてもらい、信越から北陸の日本海縦貫線で帰阪した。震災から5日目の生還であるが、仙台火力発電所自体が壊れており、東北電力から「再稼動のために、改めて修理に来てほしい」と頼まれており、再び、現地に戻って、送電再開に協力するつもり、だと西田さんは語っている。（聞き取り／山原）

：宮城県七ヶ浜にある東北電力仙台火力発電所で、保守点検のため天井クレーンに乗って作業中、大地震にあつた。発電所天井からは、照明等が一斉に落下したが、彼は5階にたどり着き、3階事務所まで降りることができた。

(3月28日)

：宮城県七ヶ浜にある東北電力仙台火力発電所で、保守点検のため天井クレーンに乗って作業中、大地震にあつた。発電所天井からは、照明等が一斉に落下したが、彼は5階にたどり着き、3階事務所まで降りることができた。

翌日、新潟までの車で送つてもらい、信越から北陸の日本海縦貫線で帰阪した。震災から5日目の生還であるが、仙台火力発電所自体が壊れており、東北電力から「再稼動のために、改めて修理に来てほしい」と頼まれており、再び、現地に戻って、送電再開に協力するつもり、だと西田さんは語っている。（聞き取り／山原）

(3月28日)

：宮城県七ヶ浜にある東北電力仙台火力発電所で、保守点検のため天井クレーンに乗って作業中、大地震にあつた。発電所天井からは、照明等が一斉に落下したが、彼は5階にたどり着き、3階事務所まで降りることができた。</p